

義貞は三十三歳にして兵を擧げてより燈明寺曠に斃れる迄前後六年の間、常に官軍の總帥であり、一命を天皇に捧げたまつりて皇政復古の大業を翼賛しまゐらせ、「義を重んじて命を限す一族百三十二人、節に臨んで屍を曝す郎従八千餘人」に及んだが、義貞歿後星霜五十餘年、新田氏の一族郎黨は全く吉野朝と運命を共にし、最後の一人迄大君に生靈を献げたのである。

盡忠國に殉じた偉勳は楠木氏と共に千古消ゆる事なく、その精神は脈々として天地の間に遍満し、遂かに明治維新の鴻業を翼賛し奉つた。明治九年十二月朝廷は特旨を以て正三位を追贈せられ、其の靈を越前吉田郡燈明寺曠に祀り、別格官幣社に列し藤島神社の號を賜はり、尋いで十五年、更に正一位を贈られた。同三十一年、神社は福井市足羽山の東面に移された。また明治六年新田郡太田町金山城址の頂上に義貞を祀り、新田神社の社號を授けられたが、九年縣社に列せられ、郷人崇敬の大中心となつてゐる。

2. 關 孝和

數學は西洋から傳へられたものと考へる者が多い。しかし日本には古より「和算」といふものがあつて外國に劣らぬ研究を爲した。その上近く二百數十年前、我が上野國に關孝和といふ學者が出て、數理の蘊奥を究め、世界の數學史上に独自の天地を開いたことを知る者は實に意外な程少ないのである。

關孝和は多野郡藤岡の人、内山永明の二男として生れ、後、關家を嗣いだが其の生年は詳かでない。三代將軍家光の寛永年間であつたらしい。或は十九年といひ、十四年とも傳へる。

孝和は天性聰敏で最も算數に優れ、六歳の頃既に大人達の布算の方法を見て一々其の誤を指摘したと云はれる。幼にして神童と驚嘆されたのであるが不遇なりし父母に別れてより奮起一番、近世算學の大家高原義種に就いて學び、不撓の精進によつて勤勉努力を重ね、その研鑽した數理は、世界數學史上に一新紀元を劃したところの今日の微分積分學の思想に到達し、夙に算聖と仰がれるに至つたのである。

彼の創始した點竄術は筆算による代數學である。

當時西洋以外において代數の演算が自在に行はれたのは獨り我が日本のみであつた。孝和は又、正三角形・正四角形・正五角形等の正多角形に關する角術なる算法を考案し、更に圓や球などの算法を工夫するに至つた。そして其の極致は遂に西洋の微分・積分學に對比すべきものに迄進展した。

微分・積分學とは無限小の計算に關する高等の數學である。無限小の計算に於て、無限小の二つの數の比を求めるとは微分學に屬し、無限小を限りなく多く加へるとは積分學に屬する。つまり無限小とは例へば分數 $\frac{1}{a}$ に於て分母 a が限りなく大きくなる時は分數 $\frac{1}{a}$ の値は限りなく小となりつひに零に近くなることとなり之を無限小と言ふのである。此の無限小の計算の例は次の如くである。圓周を求めるとは圓に内接する正多角形の邊數を限りなく増加した時の正多角形の各邊の和と考へて求める。此の場合邊數を限りなく増加する時は各邊は無限小となるのである。即ち無限小なる各邊を限りなく多く加へる計算となる。微分・積分學は英國のニュートン及び獨逸のライプニッツの創始した所と傳へられてゐるが、孝和の發見にかゝる諸術理中、其の白眉とも稱すべき圓理術は其の歸趨を同じくしてゐる。故に孝和は、英國のニュートン、獨逸のライプニッツと時を同じうして高等數學上の世界的大發見をなしたと言つて然るべきである。(關孝和2302—2368、ニュートン2302—2387、ライプニッツ2306—2376)後世この三人を世界の三大數學家と呼ぶも亦宜なりといふべく、上州がこの大偉人を生んだことは一大快事と言はなくてはならぬ。

孝和は主家蘆田氏(關・内山兩家は共に藤岡町蘆田城主蘆田氏の家臣である。)の没落後將軍家綱の弟甲府藩主徳川綱重及びその子綱豊の二代に仕へた。綱豊が將軍の世子となつて名を家宣と改むるや、孝和は世子附となり、尋いで役柄は勘定吟味役から御納戸組頭(會計課長の如きもの)となり祿三百石を領したといはれる。仕官の傍、術理の研究と子弟の教養とに盡し所謂關流の數學を世に傳へたが、寶永三年勤を辭して小普請組に入り同五年十月二十四日江戸に病歿した。享年六十七。墓は江戸半込辨天町の日蓮宗淨輪寺にある。後、關氏は斷絶するに至つ